

道東太平洋沖の流速場（2019年08月 海況速報No.189 付記）

2019/08/13

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮：親潮の本流（O1：流速40～80cm/s程度（100m深））は根室の沖合を南西に流れており、そのまま岸に沿って襟裳岬の東側を41°N付近まで南下しています。親潮が流れる道東海域（えりも以東）には、広い範囲に親潮水（100m深5℃以下）が分布し、平年並みかやや低い水温となっています（図2）。

暖水（えりも以東）：観測海域の南東部（41°N、145～146°E）には平年より8℃以上高い暖水（100m深10℃以上）が分布しており、その北側には非常に強い東向きの流れ（W1：流速60～100cm/s程度（100m深））が流れています（図2）。これは観測海域の南に分布する時計回りの暖水塊の北端部を捉えていると考えられます。

津軽暖流：津軽海峡から流出した暖水（100m深水温：12℃以上）は大きく東へと張り出しており、津軽暖流は渦モードです。

今後の見通し：親潮は道東海域を順調に流れています。しかし、今後10月以降は1年で最も親潮の勢力が弱まる時期となります。現時点でも親潮本流の沖合に暖水が分布しており、今後は道東太平洋海域でも水温が平年よりも高くなる可能性があります。

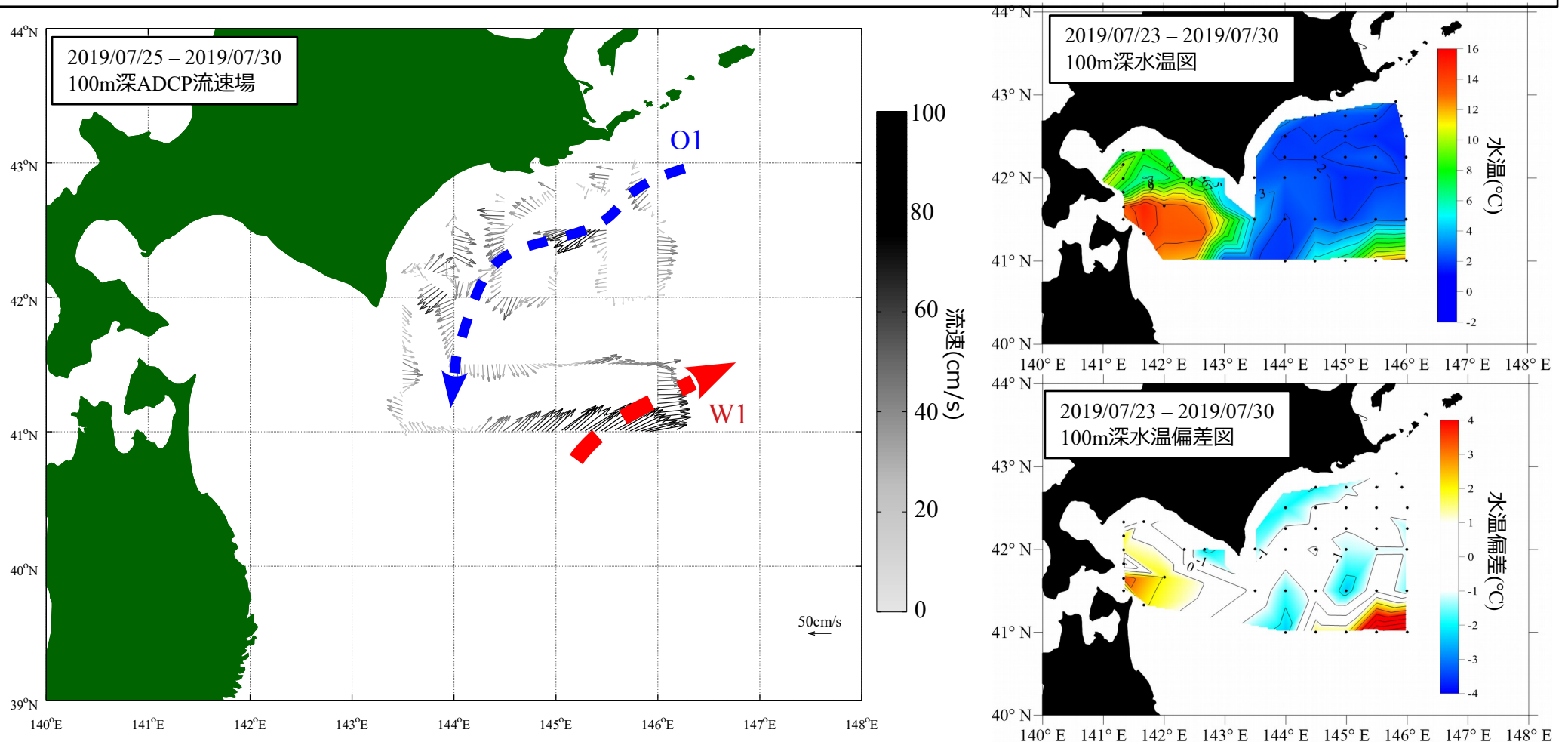


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さや色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）と暖水（赤）の流れの模式図

図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2018年平均からの差）